

巻頭言 郷土・出版委員会の今とこれから	1
特集：図書館総合展	
第 15 回図書館総合展 フォーラム報告	2
〃 ブース展示報告	2
研修会レポート③ 「CD・DVDの構造と修理について」	3
研修会レポート④ 「ワークショップ・図書館の“企画”を考える」	3
新連載 わたしのイチオシ『土地宝典』	4

郷土・出版委員会の今とこれから

郷土・出版委員長 大磯町立図書館 佐藤 聡

郷土・出版委員会は郷土資料・書誌等の編集発行のための諸事業を行なうことを目的に、従来の郷土資料編集委員会と書誌委員会を統合する形で平成 13 年度に設立されました。この 13 年の間に「神奈川県図書館協会の歩み」、「神奈川県図書館協会の歩み その 2」の 2 冊を刊行し、今年度 3 冊目となる「神奈川県皇国地誌残稿所在目録」を刊行します。

この目録は、郷土資料編集委員会が編集した「神奈川県郷土資料集成」第 4、第 5 輯の『神奈川県皇国地誌残稿』上下巻、第 12 輯の『神奈川県皇国地誌 相模国鎌倉郡村誌』の 3 冊を補完する目的で、平成 17 年度に県内各自治体に皇国地誌残稿の原本または複製物の所在及び刊行物についてアンケートを行い、平成 24 年度に再調査をした結果を編集したものです。内容は「県内自治体へのアンケートによる皇国地誌残稿所在目録」、「皇国地誌残稿掲載の刊行物一覧」の 2 章で構成しています。「刊行物一覧」は、各自治体の回答を元に各委員が書誌事項を確認また追加作業を行なった結果を

まとめました。残稿の所在確認は約 250 を数えることができました。

本来であれば、皇国地誌残稿の翻刻を行いみなさんのお手元に届けたかったのですが、目録の体裁での刊行となりました。県内郷土資料の参考資料として、各館の調査・研究の一助になれば幸いです。

また、郷土・出版委員会の今年度の課題として、今後の委員会の方向性を示すことがあります。協会報第 244 号で鎌倉市と小田原市の事例報告にも見られるように、県内の郷土資料をめぐる課題は解決していない部分が沢山あり、以前にも増して利用者からの要求、期待は高まることが予想されます。

これからの郷土・出版委員会の役割としては、県内の郷土資料について、調査、研究を行い図書館員の視点を生かした、利用者にもとめられている書誌情報を編集し、その成果を刊行物として、または協会のホームページ上でみなさんにご覧いただけたらと考えています。

特集：図書館総合展

第 15 回図書館総合展 フォーラム報告

平成 25 年 10 月 29 日～31 日の日程で第 15 回図書館総合展が開催され、研修委員会では 10 月 30 日にフォーラム「学校図書館は学校教育のインフラ―公共図書館はどのように支援できるか―」を開催しました。講師に、八洲学園大学の高鷲忠美先生と国立国会図書館国際子ども図書館の高宮光江先生をお招きし、学校図書館の機能と公共図書館とのかかわりを中心にお話いただきました。昨今の学校図書館への関心の高まりからか、全国各地から 187 名の参加があり、学校図書館ボランティアの方から議員さんまで、図書館員に限らず様々な立場の方にご参加いただきました。

高鷲先生からは、学校図書館の機能と、先進的な学校図書館の事例をお話いただきました。学校図書館は「授業」を支え、よりよい教育の実現に貢献する「手段」である、学校図書館の機能は「読書センター」機能と「学習情報センター」機能の二つであり、子どもたちが「読書習慣」と「調べる力＝情報活用能力」を身につけるのを支援するのが学校図書館であると話されました。

次に先進事例として、山形県鶴岡市立朝陽小学校と島根県松江市立揖屋小学校の活動を多くの資料を用いて紹介されました。また、公共図書館の関わり方の例として、島根県の「子ども読書県しまね」の活動についてもお話いただきました。

高宮先生からは、国際子ども図書館が実施した「学校図書館との連携による学習支援プロジェクト」の結果から、3 つの気づき「図書館員と授業者との視点の違い」、「コーディネーターの重要性」、「幅広い選書と豊富な資料・物流」についてお話がありました。また、教員や学校図書館職員に「子どもと情報をつなぐ手段」を紹介することも公共図書館の役割ではないかとの提案があり、参考となる web サイトをご紹介いただきました。

学校図書館の現状は自治体や学校により大きく異なりますが、先進的な事例を知り、伝えていくことの必要性を改めて感じました。

なお、今回のフォーラムの発表資料は神図協ホームページに掲載しておりますので、そちらもご覧ください。

(神奈川県立図書館 伊大知 綾子)

第 15 回図書館総合展 ブース展示報告



広報委員会では、今年もブース展示で図書館総合展に参加しました。第 15 回を迎えた今回の総合展は、前年より少し早めの日程となりましたが、来場者数が 10 月 29 日～31 日で 29,963 名となり、過去最高記録となったそうです。協会のブースにも 316 名の方が立ち寄ってくださり、様々な方の貴重な意見を伺うことができました。

ブースでは去年に引き続き、神奈川県図書館協会を紹介する各委員会の PR パネルや刊行物の展示を行いました。それに加え、共同スペースの神奈川県資料室研究会にあわせた形で、「県立の図書館機能の見直し案に対する要望書」のパネルも展示しました。こちらは、神奈川県の緊急財政政策に基づく神奈川県立図書館、県立川崎図書館の機能集約・廃止問題に対する要望書で、この問題については来場者も関心が高かったようで、何度も質問を受けました。この先どうなるかはまだわからないため、回答できない部分もありましたが、神奈川県図書館協会としての対応を説明しました。

また、ブースには加盟館からのチラシも並べていたのですが、その中でも、来場者が興味深く手に取っていたのが、川崎市立中原図書館で作成している「ロール紙の芯を利用したブックエンドの作り方」のチラシです。ブックエンドは実際に展示で利用していたので、実物を見て「自分の図書館でも作りたい」と話されていた方が多く、リサ

イクルされている図書館の方には好評のようでした。自分が働いている図書館ではロール紙を使用していないので、このブックエンドは使ってみました。

第16回図書館総合展は2014年11月4日(火)～11月8日(土)でパシフィコ横浜での開催は

11月5日(水)～11月7日(金)の予定とのことです。

今回学んだ経験を、次回の総合展や今後の図書館業務にも生かせるように努めていきたいと思います。

(東海大学附属図書館 阿部 真由美)

研修会レポート③「CD・DVDの構造と修理について」

(9月26日実施)

今回、藤沢市総合市民図書館を会場に、平成25年度第3回研修会「CD・DVDの構造と修理について」を開催いたしました。

今回の研修は、視聴覚資料をテーマとした研修が必要とのことから、2年振りに、CD・DVDの基本的な取り扱いについての講習を企画したものです。

この2年の間にも視聴覚資料を取り巻く環境は日々変化してきており、それに伴い利用者への対応も複雑なものとなってきております。こうした中、普段知っているようで知らないことの多い視聴覚資料の基本的な構造や修理法につき、メディアフィックス代表の古田道人さんを講師としてお招きし、実践さながらの講義をお願いいたしました。

○主な講義内容

- ・ディスクの基本的構造
- ・ディスクの日頃の管理方法
- ・ディスクに傷が付いた場合の影響
- ・研磨・掃除の方法
- ・機器の状況

○今回の研修で学んだこと

- ・ディスクの保管法として
管理環境としては、温度は4℃～20℃、湿度は20%～50%が推奨できる範囲。
保管は縦が大原則で、横積みはNG。
ディスクは、熱には弱い。
大切なデータは、常にバックアップをとり、ときどき再生させる必要があること。
- ・ディスクに異常が発生したとき
傷の具合により研磨・掃除等を施しても元には戻らないこともある。

研磨機にかければ傷が全て修復できるわけではないこと。

日常的な手入れには、水を使用しての掃除が最も有効であること。

・デッキの管理

埃や塵が故障の原因となること。

機器の読み取り精度も、劣化の可能性があること。

・その他

ブルーレイの普及があまり進んでいない。

図書館職員にとっては、今回のテーマが日頃学習する機会のないものであったためか、30人を超える参加者がありました。講師の研磨機や水を使用しながらの実演に、参加された皆さんは食い入るようにみて、これまでの知識・技術の不足や誤解していたことの解消にも役立ったようです。さっそく、明日から職場で実践しようという参加者もいらっしゃいました。



(逗子市立図書館 利根川 博)

研修会レポート④「ワークショップ・図書館の“企画”を考える」

(10月10日実施)

10月10日(木)、平成25年度第4回研修会が、相模原市立相模大野図書館にて開催され、川崎市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課地域教育担当係長の舟田彰氏に、「ワークショップ・図書館の“企

画”を考える」をテーマとしたご講義をいただきました。

舟田氏は、図書館で8年、公民館で7年の経歴があり、中原図書館、麻生図書館での様々な企画運

営の経験を基に、展示の仕方や外部との連携、ノウハウなど多くの課題について具体的な例を挙げながらご指導いただきました。

始めに、「知らない人との名刺交換」という簡単なゲームをしました。

3分ずつ5人の方と順番に、紙に書いた手づくりの名刺を使って繰り返し質問をしていきました。このゲームで皆さんが知り合いになることにより、

次のワークショップがスムーズに進められることができました。

ワークショップでは、4～5人のグループが6班に分かれて、今まで自分が取り組んできた企画・展示のタイトルをポストイットに書いて、説明しながら模造紙に貼り付け、タイトルをつけて発表しました。

短時間でしたが、他館で行われている企画内容や展示状況など、どの班も個性があつておもしろく、他館との情報交換ができて有意義な内容でした。

いろいろな館の話を聞くことと、実際に他館へ

足を運んでみてどのような企画や展示をしているのかを知ること、ヒントを得られるということでした。

研修終了後に行った相模大野図書館の施設見学は、自由参加にも関わらず、多くの参加者があり、展示の様子や運営の仕方について熱心に質問をされている参加者もいました。



(南足柄市立図書館 日比野 友哉)

新連載 わたしのイチオシ 『土地宝典』 (神奈川県立公文書館)



『土地宝典』とは、「公図」と「土地台帳」の情報を民間が編集・発行した地図帳形式の地籍図です。火保図のような住宅地図ではなく、土地の地番や位置、形状、地積が記されており、土地所有者や地目が掲載されているものもあります。この地籍図、歴史的価値もありますが、なぜか現用資料としても活用されています。

我々は全ての土地は登記済みで安全・安心と考えていますが、現在登記所に備付の公図に混乱地域があるのがその原因です。

国土交通省は、最新の測量による地籍調査を推

進していますが、神奈川県は僅か 13%の実施率(平成24年度末)です。結果として、地租改正時の精度の低い地図を基にした旧土地台帳付属地図(公図)を使用せざるを得ない状況で、この地図に混乱箇所があるために、土地宝典を根拠に登記所に地図訂正等を申請する事例があるのです。

ところで通称『土地宝典』、『〇〇村地番反別入地図』『一村字限切図』などの表題でも発行されていました。当館収蔵の土地宝典は、明治期発行の一部を除き、昭和初期に発行されたもので、原資料は104冊、写真複製版は20冊になります。元々、全県下限なく発行していた訳ではないようですが、収集状況に地域差があります。100%の収集地域がある一方、旧相模湖町・旧藤野町・清川村は収集されていません。

目録情報は公文書館ホームページで検索できますし、著作権をクリアした一部の館蔵資料は、「神奈川デジタルアーカイブ」で公開しています。皆様の館で『土地宝典』のレファレンスがありましたら、県立公文書館のコレクションを一寸思い出してください。

(資料課 佐々木 徹)